

「引き下ろされてはいないぞ」スクルージはベッドのカーテンの一つを両腕で抱きしめながら叫びました。「輪っかもすべてそのままだ。カーテンはここにある。わしはここにいる。そうなるかもしれない。未来の幻影は追いかつられたのかもしれない。いや必ず追いかつらう。そうすると！」

しばらくの間、彼は衣服と格闘していました。裏返しにしたり、上下あべこべに着たり、破れそうなくらい引つ張ったり、間違つて身につけたり、衣服を使つてありとあらゆる突飛な行動をしていました。

「何をしていたかわからない！」スクルージは笑うと同時に泣きながら叫びました。彼は古代ギリシアのラオコーン像よりしく、自分の二足の長靴下と格闘していました。

「わしは羽根みたいにふわふわ、天使みたいになるん、少年みたいにわくわく、おまけに酔っぱらいみたいにくらくらする。世界中のみなさん、メリー・クリスマス！それから新年おめでとう。やっほっほー。万歳。やっほー」